

「軍票」とは…

「**軍票**」とは、「軍用手票」の略称で、戦時中、占領地区において軍費を賄うために政府が発行したお札の一種です。わが国では、1894年（明治27年）に勃発した日清戦争時に5種類の軍票が初めて発行されました。その後も日露戦争、日中戦争、太平洋戦争など、対外戦争の都度発行され、太平洋戦争時には実に50種類以上の軍票（「南方開発金庫券^(注)」を含む）が発行されました（下表参照）。

日清戦争（1894～95年）	5種類
日露戦争（1904～05年）	6々
青島出兵（1914～22年）	6々
シベリア出兵（1918～22年）	6々
日中戦争（1937～太平洋戦争へ）	35々以上
太平洋戦争（1941～45年）	50々以上

（注）「南方開発金庫券」は、東南アジア・西南太平洋の作戦地域へ資金供給等を行うため、1942年（昭和17年）に政府が設立した「南方開発金庫」発行の軍票です。同年以降、「軍票」は「南方開発金庫券」と呼称されました。



日露戦争軍用手票



南方開発金庫券

また、第二次大戦末期以降、諸外国に進駐した連合軍は多くの軍票を発行し、日本本土でも1945年（昭和20年）8月末頃から「B号円表示補助通貨」



B式軍票

（以下、「B式軍票」）を発行しました。日本政府は軍票の乱発によるインフレーションの助長などを懸念し、連合軍に軍票の発行取り止めを強く要請するなど、精力的な交渉を行いました。その結果、連合軍は日本政府の要請を受け入れ、翌月上旬には「B式軍票」の回収を開始したため、本土での本格的な使用は回避されました。もっとも、回収された「B式軍票」は未発行分とともに琉球（沖縄県および鹿児島県の一部）に回送され、「B円」の呼称で1958年（昭和33年）まで法貨として使用されました。

ところで、わが国の軍票の起源を知っていますか？ それは、「西南の役」（1877年＜明治10年＞）に際し、軍資金に窮した薩摩軍が発行した「西郷札」と呼ばれる6種類の布製（紙の表裏に布を貼り合わせ）の軍用紙幣であるとされています。

もっとも、「西郷札」は反政府軍が発行したものであるため、厳密な意味では軍票ではありません。



西郷札